

おま、人類がこれまで行なってきた実験の中で、核兵器実験ほど大がかりで、犯罪的なものはない。人類が欲する最終まで、そのすみかにするであろうこの核兵器を、どにかえしのつかないように汚染し、かつ自らの手で、次々に生れ出る子孫の中に、不幸な運命を待ち受ける教を授けてやる。強欲は、これほど激しい科学的事実である。

このように思ひついで核兵器実験に、今日まで、文明国が参加しているのは、どうも理由に乏しい。それは根本的には、国家間の紛争の最後の解決手段として戦争を認める限り、現代戦の有効な道具として核兵器を開発する必要がある。この必要が、核兵器を開発するに促している。

き、今では小学生でも知っている。なうのだらう、してこい。言はせても簡単には示すことが出来るが、この「二」の例をあげる。相手に核兵器を壊滅させるには核兵器の威力、精度、量等を出来るだけよく見せておかなければならない。完全破壊してあげたのでは、「口へ」にせよ、相手は何とも思わない。一方、すっかり公開して、各前にも、威力が大に減殺される。

戦争廃絶に直結

核実験停止への道

幸田 利雄

失った人々の勢力が強いこと、を示している。われわれは、核兵器が、彼等が屈服しないことを切に希望する。

注「フ」ラケットの論文は、「みすず」四月号に渡辺隆義氏のすぐれた訳がある。題は「軍縮への現実の道」

この「二」の例をあげる。相手に核兵器を壊滅させるには核兵器の威力、精度、量等を出来るだけよく見せておかなければならない。完全破壊してあげたのでは、「口へ」にせよ、相手は何とも思わない。一方、すっかり公開して、各前にも、威力が大に減殺される。

い、断固として核兵器実験の停止を要求しなければならぬ。以上簡単に述べたところからわかるように、核兵器実験の問題は、戦争そのものの廃絶といふことにならなければ、真の解決は出来ない。そのための現実的な道は、まず実行可能な核兵器実験停止協定の締結、全面完全軍縮への有効な第一歩としての核兵器の制限、廃棄へと進むべきである。特に日本としては、緊急に日本をめぐりアジアの非核武装地帯協定案を国連に出して、前記実行可能な停止協定の立案を促して積極的な行動を促すべきである。私はこれが唯一の現実的解決策であり、平和協定を締結する日本の歴史的使命であると考える。

c092-015-002